

Week of September 6th, 2026 - I AM The Way, The Truth, and The Life　　Small Group Lesson 6

知り合う

- 富士山の山頂へ向かう主要なルートがいくつあるかご存知ですか？それぞれの名前を挙げられますか？
- 信仰の道のりを富士登山に例え、「頂上に向かうルートが複数あるように、神に至る道もいくつもある」と考える人がいるのではないかと思ったことはありませんか？また、誰を、あるいは何を信じているかにかかわらず、「誰でも救いを得ることができる」という考えを受け入れる宗教や思想として、何か思い当たるものはありますか？

聖句　ヨハネ 14:1–7 (聖書協会共同訳)

1「心を騒がせてはならない。神を信じ、また私を信じなさい。 2 私の父の家には住まいがたくさんある。もしなければ、私はそう言っておいたであろう。あなたがたのために場所を用意しに行くのだ。 3 行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを私のもとに迎える。こうして、私のいる所に、あなたがたもいることになる。 4 私がどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。」 5 トマスが言った。「主よ、どこへ行かれるのか、私たちには分かりません。どうして、その道が分かるでしょう。」 6 イエスは言われた。「私は道であり、真理であり、命である。私を通らなければ、誰も父のもとに行くことができない。 7 あなたがたが私を知っているなら、私の父をも知るであろう。いや、今、あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見たのだ。」

話し合いと適用のための質問

1. これらの聖句箇所（ヨハネ 11:25–26, 53; 12:11; 12:43; 13:1, 21–30, 36–38）をじっくり読み、イエスと弟子たちがどのような状況に置かれていたかを説明してください。
2. 先ほど確認した状況を踏まえて、なぜイエスは弟子たちに心を騒がせないようにと語られたのでしょうか？イエスは弟子たちにこの教えをどのように実践して（適用して）ほしいと願っており、それは何に基づいているのでしょうか？また、あなた自身は今、ご自分の生活の中でこの教えをどのように実践していますか？（ヨハネの福音書 14:1–4）
3. イエスは弟子たちに、自分がどこへ行くのかその道を知っていると言われますが（14:4）、トマスは知らないと言います。イエスと共に約3年間過ごしたのち、なぜ彼らはその道を知らなかったのでしょうか？イエスと過ごした時間の中で、彼らは何を見落としていたのでしょうか？あなた自身のイエスとの歩みにおいて、イエスについて何かを見落としていたと感じたことはありますか？自分の信仰が深まっていることをどのように知ることができますか？
4. イエスがご自身を「道であり、真理であり、いのちである」と宣言されたのは、どのような意味なのでしょうか？イエスと父とのつながりを説明してください。（ヨハネ 14:6–7）
5. 「わたしは道であり、真理であり、いのちである」というイエスの言葉は、信仰者としてのあなたの人生にどのようにインスピレーションを与え、影響を与えていますか？それは毎日、あなたの優先順位や決断を導くうえでどのように役立っていますか？（ヨハネ 14:6a）
6. イエスが「道であり、真理であり、いのちである」ということを、あなたやあなたのスモールグループはどのような方法で未信者の方々に伝えることができますか？グループ内でアウトリーチ（伝道）のアイデアを分かち合い、そのうちの少なくとも一つを実践できるように祈りましょう。

具体的な祈りの課題を分かち合い、お互いに仕え合いましょう。

レッスンPDF: gotbc.org/sg3626jp　　学びの聖句: gotbc.org/sg3626j